

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：35305

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330182

研究課題名(和文)戦前期における社会事業の展開 - 自由と全体性の変遷をめぐって -

研究課題名(英文)Deployment of Social Work in Before the War-Changes of Freedom and Totality

研究代表者

杉山 博昭(SUGIYAMA, Hiroaki)

ノートルダム清心女子大学・人間生活学部・教授

研究者番号：20270035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：戦前の社会事業の特質を明らかにするため、「自由」と「全体性」をキーワードに分析した。そのために、まず社会事業の思想について、「自由」や「全体性」を日本社会がどう受け止めたのかを明らかにしようとした。特に、「社会連帯」についての一般社会の理解を把握した。児童保護の法律が、先進的であったが、実際には適切に運用されなかった実態を示した。さらに、地方での社会事業について、東京、山口、鳥取、石川を取り上げた。全国一律ではなく、地方独自の活動が行われていた。地方の独自の活動の背景として、厳しい生活実態と、それを打開する意欲的な姿勢があった。反面、政府の政策を超える影響を持つことはできなかった。

研究成果の概要(英文)：I analyzed by the key words such "freedom" and "totality" to clarify the characteristic of social work before the war. Therefore, I firstly tried to clarified how Japanese society perceived the "freedom" or "totality" in terms of thought of social work. Especially, I confirmed the comprehension about "social solidarity" in general society. It showed the actual conditions where the child custody laws was advanced, however it was not appropriately managed in fact. Furthermore, I selected Tokyo, Yamaguchi, Tottori, and Ishikawa to investigate the social work in the provinces. It was not the same all over the country while unique activities by province were performed. As the background of unique activities by province, there were the actual condition of strict life and the aggressive attribute to overcome the life. On the other hand, they could not have influence beyond the government policy.

研究分野：社会福祉学

キーワード：社会福祉思想 社会福祉史 方面委員 地域社会福祉史

1. 研究開始当初の背景

近年の社会福祉史研究においては、人物、施設等の個々の研究ではすぐれた成果がみられるものの、その背景となっている原理を把握し、分析するにはいたっていない。ことに、自由、正義、公正、民主主義といった、社会福祉を根拠づける価値観について、正面から分析することは少なかった。今日の福祉国家の揺らぎの中で社会福祉をめぐる法や政策のあり方が根本的な見直しを迫られており、社会福祉の構造的な把握が、社会福祉の諸課題を議論するうえでも必要性を増している。こういう社会福祉をめぐる状況のなかから、研究を開始することになった。

2. 研究の目的

社会福祉が慈善事業と呼ばれた時代において、国家からの補助がない代わりに自由な立場での実践が可能であった。その後の社会事業への発展は、実践の広がりや安定を見せ、財政的にも国家からの補助などがある反面、全体性の影響下におかれ、ついには戦時厚生事業へと飲み込まれることになる。

そこで、自由な慈善事業の意義を認識しつつ、戦前の社会事業が最盛期をむかえる、1930年代を主な対象において、自由からの分析において、政策や実践がどのような性格をもっていたのか、それが全体性との関連において、どのような性格を持つようになるのかを分析する。こうした作業を通じて、戦前の社会事業の本質を把握していこうと試みた。

3. 研究の方法

(1) 社会事業を形成している柱として、社会事業思想、法体制、社会事業実践を取り上げた。思想が基底にありつつ、思想を実現する手段として法制度と実践がなされているという理解に立つ。また、実践を取り上げるにあたっては、社会事業実践が具体的に展開されるのは地域であり、地域における社会事業を重視した。

そして、各領域について、担当者を配置し、史料収集とその分析を行った。

(2) 思想については、「自由と全体性」という本研究全体を貫くキーワードについて、マクロな視点から分析を行い、それを前提として個々の課題について、分析を行うこととした。

(3) 法制度については、児童問題に対象を絞った。慈善事業期より、児童にとりわけ問題状況が鮮明に表れる傾向があるためである。児童関係の法制度について、施行状況を確認しつつ、その社会的役割を把握した。

(4) 社会事業実践については、地域に着目し、特定の地域において、実践がどう展開したのかを把握した。社会事業の特性は最終的には実践において発揮されるのであり、その実践は各地の個々の施設等において示される。そこで、特定の地域を限定し、そこでの

展開を把握した。東京という大都市部と、石川、鳥取という日本海側の県、そして中間的な山口を取り上げ、特に貧困に対してどう向き合ったのかを、個々の府県での具体的な課題を材料に検討した。

4. 研究成果

(1) 自由と全体性それ自体をどうとらえていくのか、西洋社会における捉え方について、主要な哲学者らを通して検討した。そのうえで、日本の近代化過程での自由主義と自由、全体主義との関係进行分析し、それぞれが未分化なまま、戦後民主主義の時代をむかえ、我が国において、全体主義と対峙して人権を確立していくことが困難である原因を検討した。

(2) 社会事業の思想的基盤として語られる社会連帯思想であるが、従来は社会事業関係者の思想のみが分析されやすかったが、本研究では分析対象を広げて、法学、経済学、政治学、さらには師範学校等の公民科教科書を対象として分析を行った。その結果、国民統合の理念や国家のための連帯という傾向があることが明らかになった。これまでは、社会連帯について、フランスをベースにした自由な思想という側面から評価されがちであったが、むしろ全体性を色濃く反映した思想という側面があることが示された。ただ、戦時下の議論を見た場合、単純に戦時体制に迎合しているわけでもない。したがって、さまざまな社会連帯思想について、その内実について、さらなる検討が求められる。

(3) 社会事業問題を、社会事業の立場からのみ分析するのではなく、むしろ遠く離れた立場から見直すことで、社会事業が社会においてどのような状況にあったのかを把握することを試み、その一環として作家の永井荷風を取り上げた。永井はアメリカに渡り、アメリカ社会の人種差別などの諸問題に直面することになった。この体験が、進歩視されやすかったアメリカ社会を相対化する視点を生み、帰国後の荷風が、日本社会の冷笑的に見ていく素地になっていった。

(4) 1933年の児童虐待防止法を取り上げ、まず、同法の施行の実態を明らかにした。虐待防止を中核とした法が実現して、家庭内の問題とされやすかった虐待を、国家的課題の認識したことで、児童の立場からすれば人権擁護の性格を持つものである。しかし、少年労働規制の関係上、当時は小学校までが義務教育であり、年齢が14歳未満と設定された点にも限界を有していた。特に都市部で、貧困対策ともあわせ、積極的な実践につながった面もあるが、全体としてみれば不振と評される結果になった。

(5) 少年教護委員の実態を取り上げた。1933年制定の少年教護委員法に規定された少年教護委員は制度上は、非行児童の更生への地域での個別的な支援体制として先進性を持っていた。本研究では、その実態を実証

的に明らかにするために、各府県の史料を収集し、規定上の位置づけと委員の実態を明らかにした。委員の実態として、活動が不振であったことは明らかである。なぜ、不振であったのか。委員自身が非行児童の実態や制度を知らず、専門的な力量もほとんど有していなかった。ただ、制度の理念として、自由な思考や、人権保障の理念も含んでおり、戦後の民生委員・児童委員に継承された積極的な性格もある。

(6) 東京のプロテスタント系のセツルメントを取り上げた。セツルメントは、自由な性格を強く持つ実践であるにもかかわらず、1930年代以降、全体性の論理に巻き込まれていったことが批判されてきた。

プロテスタント系セツルメントについて、慈善的性格が批判されたが、必ずしもそうではなく、労働問題などと関連しながら実践が展開されており、自由な視点からの実践であった。

(7) 婦人方面委員の問題を取り上げた。方面委員は、地域福祉の先駆的活動として、個々の委員による積極的な取り組みが見られる反面、国家の支配原理を地域に貫徹させる要素をもつ。婦人方面委員は、地域性をより強く有しており、なぜ当時は参政権もなかった婦人を方面委員に活用したのか。婦人方面委員を積極的に採用した山口県を事例として、検討した。1920年代、山口県で強調された思想善導の動きがあり、婦人会等で地域に影響力を持つ婦人の役割が期待されたのではないかとの仮説を持つにいたった。また、婦人方面委員の実態を明らかにした。

(8) 鳥取市における貧民対策を取り上げ、特に窮民教育所に着目した。鳥取市の救貧行政について、公的救済人員の推移をみると、非常に低い水準であった。しかし、1918年の災害と米騒動によって、貧民対策の重要性が、行政当局者によっても認識された。

(9) 石川県を対象として、とりわけ農村地域における取組を分析することで、国家的課題を検討した。石川県の禁酒村を宣言した村を取り上げて、そのプロセスやそれを現実化した地域の生活実態、地域の政治構造等を分析した。さらに愛育村に選ばれた村に焦点をあて、愛育村がモデル村というより、乳児死亡の高さなど多くの課題を有した村であるからこそ選ばれたのであり、そこでは国家的課題としての国民の健康維持を実現するための政策的な意図が貫徹していることが明らかになった。こうした検討により、農村地域の動きと、国家政策との相互関係を明らかにして、戦時厚生事業への動きが地域の基底において形成されつつあったことを示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

杉山 博昭、1930年代のキリスト教による農村社会事業の発展、キリスト教社会福祉学研究、査読無、47号、2015年、4-12

杉山 博昭、戦前におけるカトリックセツルメントの展開、ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所年報、査読無、36号、2014、1-24

杉山 博昭、戦時下の農村における医療体制の整備、中国四国社会福祉史研究、査読無、13号、2014、57-64

今井 小の実、大阪社会事業連盟と救貧法制の行方 - 研究部の活動に焦点をあてて -、人間福祉学研究、査読有、7巻1号、2014、99-113

杉山 博昭、山口県勤務時の田子一民、地域社会福祉史研究、査読有、5号、2013、5-14

杉山 博昭、山口県における国民健康保険法の施行過程、中国四国社会福祉史研究、査読無、12号、2013、

杉山 博昭、アキスリングの社会活動と思想、社会福祉科学研究、査読有、2号、2013、1-11

今井 小の実、なぜ方面委員は“Female Professional”として成立しなかったのか - 大阪府の「方面婦人保護委員」創設案の史料を通して -、社会事業史研究、査読有、43号、2013、5-26

佐々木 光郎、昭和戦前期の少年教護院における「体育」、査読無、静岡英和学院大学・短期大学部紀要、11号、2013、95-106

小池 桂、地方改良運動と地方救貧行政の成立 - 鳥取県を例にして、徳山大学総合研究所紀要、査読無、35号、2013、91-104

山本 啓太郎、昭和前期の大阪における福祉史料 - 「大阪朝日新聞」広告欄による、査読無、大阪体育大学健康福祉学部研究紀要、査読無、10号、2013、95-111

田中、亜紀子、昭和戦前期の未成年者処遇制度 - 昭和八年児童虐待防止法案審議を主たる対象として -、阪大法学、査読無、285・286号、2013、537-561

杉山 博昭、戦後キリスト教社会福祉の可能性 - 服部団次郎をめぐって -、社会福祉科学研究、査読有、1号、2012、1-12

[学会発表](計8件)

杉山 博昭、戦前の東京におけるキリスト

教セツルメント、日本社会福祉学会第 62 回
秋季大会、2014 年 11 月 30 日、早稲田大学
(東京都)

今井 小の実、山口県社会事業と婦人方面
委員 - 大量採用の背景の検討 -、日本社会福
祉学会第 62 回秋季大会、2014 年 11 月 30 日、
早稲田大学 (東京都)

元村 智明、戦前石川県下の禁酒村と愛育
村の取り組みに関する一考察、第 14 回北信
越社会福祉史学会、2014 年 11 月 8 日、金城
大学 (石川県金沢市)

杉山 博昭、戦時下農村における保健医療
体制の展開、日本地域福祉学会第 28 回大会、
2014 年 6 月 15 日、島根大学 (島根県松江市)

杉山 博昭、社会事業史・社会福祉史から
見た渋沢栄一、第 191 回渋沢研究会、2013
年 10 月 19 日、早稲田大学 (東京都)

杉山 博昭、1930 年代における共同募金
の議論についての考察、日本地域福祉学会第
27 回全国大会、2013 年 6 月 9 日、桃山学院
大学 (大阪府堺市)

杉山 博昭、アキスリングの社会活動と思
想、地域社会福祉史連絡協議会第 12 回研究
交流会、2012 年 11 月 10 日、淑徳短期大学
(東京都)

佐々木 光郎、昭和戦前期における少年教
護委員の実態史研究、日本社会福祉学会第 60
回秋季大会、2012 年 10 月 21 日、関西学院
大学 (兵庫県西宮市)

〔図書〕(計 3 件)

杉山 博昭編、社会福祉形成史研究会、戦
前期における社会事業の展開、2015、250

佐々木 光郎、春秋社、昭和戦前期の少年
教護実践史 (上)、2012、411

佐々木 光郎、春秋社、昭和戦前期の少年
教護実践史 (下)、2012、374

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉山 博昭 (SUGIYAMA, Hiroaki)
ノートルダム清心女子大学・人間生活学
部・教授
研究者番号：20270035

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

今井 小の実 (IMAI, Konomi)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：20331770

細井 勇 (HOSOI, Isamu)
福岡県立大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：70190204

佐々木 光郎 (SASAKI, Mituro)
静岡英和学院大学・人間社会学部・教授
研究者番号：30387534

池本 美和子 (IKEMOTO, Miwako)
佛教大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：90308932

松本 郁代 (MATUMOTO, Ikuyo)
弘前学院大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：00219487

小池 桂 (KOIKE, Katura)
徳山大学・福祉情報学部・教授
研究者番号：50461348

田中 亜紀子 (TANAKA, Akiko)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：90437096

元村 智明 (MOTOMURA, Tomoaki)
金城大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：60340022

山本 啓太郎(YAMAMOTO, Keitarou)
大阪体育大学・健康福祉学部・教授
研究者番号：20200800

田中 和男(TANAKA, Kazuo)
同志社大学人文科学研究所・研究員
研究者番号：80571413

(4) 研究協力者

水上 妙子